

新燃



●問＝危機管理課 Tel 0984-23-1175

岳噴火

6月22日16時37分頃、霧島連山・新燃岳（1421m）が7年ぶりに噴火。噴煙は火口から500m以上に上がり、市内でも降灰が確認されました。市では、緊急の会議を開き、状況を把握するとともに今後の対策措置を確認。メール配信サービスや防災ラジオ、LINEなどで情報を発信し注意を呼びかけました。

7月4日には16時頃から市内で硫黄のような匂いが充満し、18時50分に県は「二酸化硫黄注意報」を発令しました。この注意報が発令されるのは、県内でも昭和46年以来54年ぶり。同注意報は5日に解除され、二酸化硫黄臭による体調不良者などの被害報告はありませんでした。

翌23日には、火山ガスの放出量が急増したため、気象庁は噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ。市は、24日に夷守岳登山道入口と大幡池登山口の3カ所に「登山禁止看板」を設置するなどの対応をしました。新燃岳はその後噴火を繰り返し、7月3日には噴煙が火口から5千mまで上昇。

今回の噴火で、小林市では7月22日現在、大きな被害は出ていませんが、霧島市では降灰の影響で水道管と温泉管が損傷。住宅や温泉施設など約300軒が被害に遭いました。小林市でも、いつ噴火による被害が起きるか分からないため警戒が必要です。

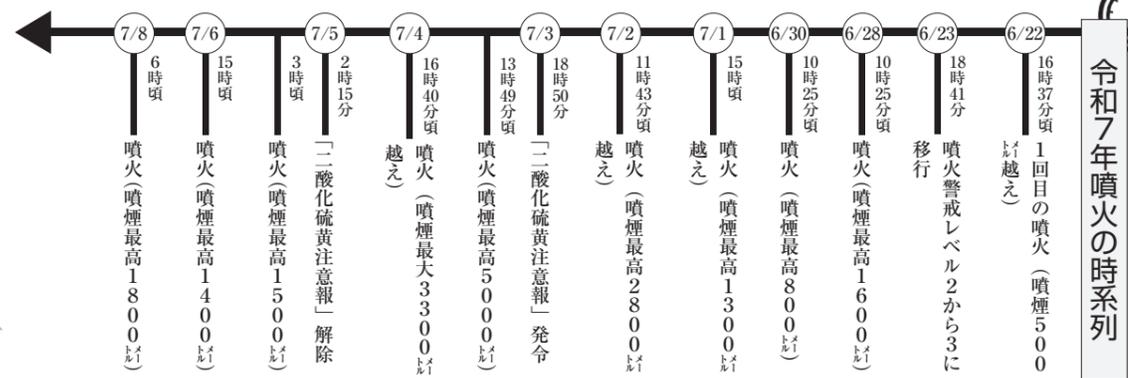
過去2回の爆発的噴火

平成23年1月27日、300年ぶりにマグマ噴火が発生。空振でドアや窓が揺れるほどの大規模噴火で、多量の灰を噴出し、風下側では露地野菜などに灰が積まりました。

同年2月14日には、市内で多量の噴石による窓ガラスやプラスチック製の屋根が割れるなどの被害が多数発生。噴石は、大きさが1m〜5mほどの大きさで、遠いところでは東方地区まで飛び、広い範囲に被害をもたらしました。

この一連の噴火活動により、市内の小中学校では教室にエアコンが設置され、児童生徒がヘルメットを被って登下校することとなりました。現在でも活用されている学校のエアコンやヘルメットの多くは、この頃から始まったものです。

また、平成29年10月11日には平成23年以来、約6年ぶりに噴火が発生。10月17日以降は落ち着いていたものの、翌年の3月6日には爆発的噴火を観測しました。その後も、断続的に噴火が発生し、市内では「絶景マラソン大会」の中止など大きな影響をもたらしました。



爆発的噴火の様子（平成23年）



噴石で割れた車の窓ガラス（平成23年）



車に多量の灰が積もる（平成23年）



ビニールハウスに灰が積もる（平成30年）



ホウレンソウに灰が積もる（平成30年）

非常用グッズ編

大規模な災害になった時は外部からの支援が届くまで時間がかかります。

もしもに備えて最低3日間（出来れば1週間分）生活できるように備蓄しましょう。非常用品は備蓄の一部と考え、備蓄品の中から避難生活に必要なものをリュックサック1つにまとめておきましょう。

また、せっかく準備しても使えなかったら意味がありません。「備蓄品の定期的な確認」をすることも大切です。例えば、毎年備蓄品の確認をする日を決めて家族で取り組むのも良いアイデアです。

噴火だけではなく、大雨や台風の災害時にも備えて非常用グッズを準備しておきましょう。

情報編

小林市は、新燃岳の北東に位置しています。噴火した時の風向きや降灰予報を確認して、火山灰の対策につなげましょう。

霧島山火山防災マップ

霧島山で噴火の可能性が高い「新燃岳」「御鉢」「えびの高原周辺」「大幡池」それぞれの立ち入り規制区域などを示したものです。

霧島山の火山活動についての最新情報を集めながら、このマップを活用して、噴火への対策を進めましょう。



非常用グッズ一覧

飲料水	食料	衛生用品
医薬品	ゴーグル	照明器具
マスク	ヘルメット	情報収集ツール

降灰予報

気象庁が降灰による影響から身を守るために「降灰量」や「降灰範囲」を予測するものです。▼詳しくはこちら

また、降灰予報は気象庁ホームページだけでなくテレビやラジオなどでも情報を発信しています。用途に合わせて活用し、被害の軽減につなげましょう。

特徴

- ・利用者の用途に合わせて3種類の降灰予報（定時・速報・詳細）を発表
- ・市町村ごとに発表して利用者の防災対応をよりきめ細かく支援

火山灰の影響と身を守るための対策

健康への影響

火山灰の粒子は非常に細かく、呼吸によって肺の奥深くまで入ることがあり、せきの増加や炎症などを伴う胸の不快感を感じる場合があります。

対策
火山灰がひどい時は、不要不急の外出を控えて屋内で過ごすしてください。やむをえず外出する時は、防塵マスクを着用し火山灰を吸い込むのを避けましょう。

道路への影響

視界が悪くなるだけでなく、火山灰が薄く積もった路面は、湿っていても乾いていても非常に滑りやすく、ブレーキが利きにくくなります。また、自動車故障の原因にもつながります。

対策
火山灰がひどい時は、可能な限り自動車の運転を避けるべきです。どうしても運転しないといけない時は、ヘッドライトを点けてゆっくり運転しましょう。

皮膚への影響

まれに皮膚の痛みや腫れ、引っかき傷からの化膿を起こすことがあります。

対策
長袖・長ズボンで肌を覆い、露出を避けましょう。

目への影響

火山灰が入ることで、目の異物感、痛み、かゆみの症状などを発症することがあります。

対策
防護メガネを着用するなど、目の中に火山灰が極力入らないよう気をつけましょう。

おがた ひろりのり
危機管理課 緒方 宏則 課長

日頃からできる3つの備え

地震や火山の噴火などは予知することがとても難しい災害です。今回の新燃岳噴火のように、いつ噴火するか分からないからこそ、日頃からの備えが大切になります。備えは「自分の身を守る」ことにつながります。

特に次の3つの備えをお願いします。

避難場所や避難経路の確認

住んでいる地域の避難場所や避難経路を事前に確認し、複数のルート把握しておきましょう。実際に避難場所へ行ってみることも有効です。

また、地域の防災訓練に参加して実践的な知識・技術を習得しましょう。

非常用グッズの準備

最低3日分の飲料水と保存食を準備しておきましょう。懐中電灯、防塵マスク、ヘルメット、ゴーグル、ラジオ、医薬品なども準備しておくことで安心です。

正しい情報を確認

市ホームページ掲載の「霧島山防災マップ」を見て、「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所を確認しておきましょう。「噴火警戒レベル」は変動するため最新の情報を確認する必要があります。

また、災害時は偽情報や誤った情報が広がるため、全ての情報をうのみにせず、正しい情報なのか確かめてから行動してください。そのため、市のLINEやメール配信サービス、防災ラジオなどの様々な情報源から正しい情報を受け取ってください。



▲メールはこちら



▲LINEはこちら

